

# Ⅱ. 資料

公立博物館・資料館一覧

県内公共図書館等一覧

用語集

掲載遺跡一覧（五十音順）

文化財の体系図

あとがき

## 埋蔵文化財や歴史民俗について学べる博物館・資料館

### 東村立山と水の生活博物館 (村立・自然・歴史民俗・剥製資料)

〒905-1203 沖縄県国頭郡東村字川田61-1 ☎ 0980-51-2828  
[開館時間] 午前10時から午後6時  
[休館日] 毎週月曜日  
<http://yamamizu.vill.higashi.okinawa.jp/>

### 今帰仁村歴史文化センター (村立・歴史・民俗)

〒905-0428 国頭郡今帰仁村今泊5110 ☎ 0980-56-5767 FAX 0980-56-2789  
[開館時間] 夏季(5月～8月)午前8時～午後7時/冬季(9月～4月)午前8時～午後6時  
[休館日] 年中無休(但し、くん蒸のため閉館します)

### 沖縄美ら海水族館 (国営・水族館)

〒905-0206 沖縄県本部町字石川424 ☎ 0980-48-2741 FAX 0980-48-4444  
[開館時間] 10月～2月:午前8時30分～午後6時30分/3月～9月:午前8時30分～午後8時  
[休館日] 年中無休  
<https://churaumi.okinawa/>

### 本部町立博物館 (町立・総合)

〒905-0212 国頭郡本部町字大浜874-1 ☎ 0980-47-5217 FAX 0980-47-5217  
[開館時間] 午前9時～午後5時  
[休館日] 月曜日・祝祭日・12月29日～1月3日  
<http://motobu-m.town.motobu.okinawa.jp/>

### 名護博物館 (市立・総合)

〒905-0021 名護市東江1-8-11 ☎ 0980-53-1342 FAX 0980-53-1362  
[開館時間] 火～日/午前10時～午後6時  
[休館日] 月曜日・年末年始・整理休館日(毎月第4木曜日)・祝祭日・展示替や館内ガス・くん蒸による臨時休館日  
<http://www.city.nago.okinawa.jp/museum/>

### 宜野座村立博物館 (村立・総合)

〒904-1302 宜野座村字宜野座232番地 ☎ 098-968-4378 FAX 098-968-5030  
[開館時間] 火～日/午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
[休館日] 毎週月曜日・祝祭日・年末年始の休日  
<http://www.vill.ginoza.okinawa.jp/facilities/museum>

### 恩納村博物館 (村立・歴史民俗)

〒904-0415 恩納村字仲泊1656-8 ☎ 098-982-5112 FAX 098-982-5115  
[開館時間] 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
[休館日] 毎週月曜日(祝日の場合は開館)・祝日の翌日(6月24日も含む)・年末年始(12/28～1/3)  
<http://www.onna-culture.jp/museum/>

### 伊是名ふれあい民俗館 (民俗、考古学)

〒905-1203 伊是名村字伊是名196-129番地 ☎ 0980-45-2165 FAX 0980-45-2416  
[開館時間] 午前10時～午後6時  
[休館日] 火・水・木(団体に限り前もって連絡があれば休館日でも開館)  
<http://vill.izena.okinawa.jp/izena/kanakou>

### 島村屋観光公園民具館 (私立・歴史、民俗)

〒905-0505 伊江村字西江17番地 ☎ 09804-9-2422 FAX 09804-9-2422  
[開館時間] 午前9時～午後5時  
[休館日] 年中無休

### うるま市立石川歴史民俗資料館(市立、歴史民俗)

〒904-1107 うるま市石川曙二丁目1番55号 ☎098-965-3866 FAX 098-965-3866

[開館時間] 午前9時～午後5時

[休館日] 月曜日・公休日の翌日・6月24日・年末年始の休日(12月29日～1月4日)／月曜日と公休日が重なるとその翌日

<http://www.city.uruma.lg.jp/culture/139/1277/1282>

### うるま市立与那城歴史民俗資料館(市立・歴史民俗)

〒904-2305 うるま市与那城中央1番地 ☎098-978-3149 FAX 098-978-8747

[開館時間] 午前9時～午後5時(ただし入館時間は4時30分まで)

[休館日] 毎週土・日・年末年始(12月29日～1月3日)・祝日(6月23日の慰霊の日を含む)

<http://www.city.uruma.lg.jp/culture/139/1277/1282>

### うるま市立海の文化資料館(市立・歴史、民俗、自然)

〒904-2427 うるま市与那城屋平4番地(2階) ☎098-978-8831 FAX 098-978-8841

[開館時間] 午前9時～午後5時(ただし入館時間は4時30分まで)

[休館日] 毎週月曜日(月曜が祝日の場合、その翌日)・年末年始(12月29日～1月3日)・祝日(6月23日の慰霊の日を含む)の翌日

<http://www.city.uruma.lg.jp/culture/139/1277/1282>

### 世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム(村立 歴史・民俗)

〒904-0301 中頭郡読谷村字座喜味708番地の6 ☎098-958-3141

[開館時間] 午前9時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

[休館日] 水曜日、年末年始(12月28日～翌年の1月4日)・

展示替え及び燻蒸などの臨時休館日・祝祭日が水曜日に重なったときには翌日が休館

<http://www.vill.yomitan.okinawa.jp/facilities/post-13.html>

### 沖縄市立郷土博物館(市立・総合)

〒904-0031 沖縄市上地2-19-6 3階 ☎098-932-6882 FAX 098-933-6218

[開館時間] 午前9時～午後5時 ※企画展期間中は午後7時まで開館することもあります。

[休館日] 毎月曜日・祝日・慰霊の日・年末年始

<http://www.city.okinawa.okinawa.jp/about/134>

### 中城村護佐丸歴史資料図書館(歴史)

〒901-2407 中城村字安里215番地 ☎098-895-5302 FAX 098-895-5353

[開館時間] 【中城歴史展示室】午前10時～午後5時

【資料図書室】平日／午前10時～午後7時 土日／午前10時～午後5時

[休館日] 毎週火曜日・毎月第3木曜日 ※祝日にあたるときはその翌平日・年末年始(12/28～1/3)、

特別資料整理期間(年1回、15日以内で館長が指定する日)

<http://www.vill.nakagusuku.okinawa.jp/detail.jsp?id=75081&menuid=14672&funcid=1>

### 宜野湾市立博物館(市立・考古・歴史・民俗)

〒901-2224 宜野湾市真志喜1丁目25番1号 ☎098-870-9317 FAX 098-870-9316

[開館時間] 午前9時～午後5時 ※入館受付は午後4時30分まで

[休館日] 毎週火曜日・祝祭日(慰霊の日は開館)・12月29日～1月3日 ※その他、くん蒸による臨時休館日あり

※休館日に祝祭日が重なる場合には、翌日の休みではない日が振替休日となります。

<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/organization/shiritsuahakubutsukan/1419.html>

### 浦添市美術館(市立・美術)

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1-9-2 ☎098-879-3219 FAX 098-878-1221

[開館時間] 午前9時30分～午後5時

[休館日] 毎週月曜日

<http://museum.city.urasoe.lg.jp/>

### 琉球大学資料館(風樹館)(大学博物館 自然史・民俗・考古・伝統工芸)

〒903-0129 中頭郡西原町字千原1 琉球大学内 ☎098-895-8841 FAX 098-895-8841

[開館時間] 午前10時から午後5時まで(12:00～13:00は閉館)

[休館日] 土・日・祝日・12月28日～1月4日(その他、展示改修等により臨時に休館する場合があります)

<http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp/>

# 埋蔵文化財や歴史民俗について学べる博物館・資料館

## 沖縄県立埋蔵文化財センター（県立・考古）

〒903-0125 中頭郡西原町字上原193番地7 FAX 098-835-8754(共通)  
☎ 098-835-8751(総務班/庶務、施設管理) ☎ 098-835-8752(調査班/情報公開、普及事業、発掘調査)  
[開館時間] 午前9時～午後5時(入所は4時30分まで)  
[休館日] 月曜日(国民の休日・慰霊の日に当たる場合は振替)・年末年始(12月28日～1月4日)・  
国民の休日(子供の日・文化の日を除く)、慰霊の日(6月23日)  
<http://www.pref.okinawa.jp/edu/maizo/madoguchi/soshiki/maizo/index.html>

## 沖縄県立博物館・美術館（県立・総合/美術）

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 ☎ 098-941-8200 FAX 098-941-3530  
[開館時間] 午前9時～午後6時 ※入館は5時30分まで/金曜日・土曜日は午後8時まで開館 ※入館は7時30分まで  
[休館日] 毎週月曜日、年末(12/29-12/31)  
<https://okimu.jp/>

## 那覇市立壺屋焼物博物館（市立・陶磁史・陶芸）

〒902-0065 那覇市壺屋1-9-32 ☎ 098-862-3761 FAX 098-862-3762  
[開館時間] 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)/冬季(9月～4月)午前8時～午後6時  
[休館日] 月曜日(休日を除く)・年末年始・資料整理期間  
<http://www.edu.city.naha.okinawa.jp/tsuboya/>

## 対馬丸記念館（財団・歴史）

〒900-0031 沖縄県那覇市若狭1-25-37 ☎ 098-941-3515 FAX 098-863-3683  
[開館時間] 日～水・金・土:午前9時～午後5時  
[休館日] 毎週月・木曜日  
<http://tsushimamaru.or.jp/>

## 那覇市歴史博物館（市立・尚家関連文書・美術工芸）

〒900-0015 那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ4F ☎ 098-869-5266  
[開館時間] 午前10時～午後7時  
[休館日] 毎週木曜日・年末年始・臨時休館あり  
<http://www.rekishi-archive.city.naha.okinawa.jp/>

## 首里城公園（国営区域及び県営区域・歴史）

〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1-2 ☎ 098-886-2020 FAX 098-886-2022  
[開館時間] 無料区域…4月～6月 午前8時～午後7時30分/7月～9月 午前8時～午後8時30分/  
10月～11月 午前8時～午後7時30分/12月～3月 午前8時～午後6時30分  
有料区域…4月～6月 午前8時30分～午後7時/7月～9月 午前8時30分～午後8時/  
10月～11月 午前8時30分～午後7時/12月～3月 午前8時30分～午後6時  
[休館日] 年中無休 <http://oki-park.jp/shurijo/>

## 南風原町立南風原文化センター（町立・歴史・民俗）

〒901-1113 沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武257 ☎ 098-889-7399 FAX 098-889-0529  
[開館時間] 午前9時～午後6時  
[休館日] 毎週水曜日  
<http://www.town.haebbaru.lg.jp/docs/2013022800327/>

## 旧海軍司令部壕（戦跡）

〒901-0241 沖縄県豊見城市豊見城236 ☎ 098-850-4055 FAX 098-850-9342  
[開館時間] 午前8時30分～午後5時(10月から6月)/午前8時30分～午後5時30分(7月から9月)  
[休館日] 年中無休  
<http://kaigungou.ocvb.or.jp/top.html>

## 豊見城市歴史民俗資料展示室（市立・総合）

〒901-0232 豊見城市字伊良波392番地 ☎ 098-856-3671 FAX 098-856-1215  
[開館時間] 午前9時～午後5時(最終入場は午後4時30分まで)  
[休館日] 毎週月曜日・祝祭日・年末年始・展示入替・ガス燻蒸等による臨時休館日 入場無料  
[http://www.city.tomigusuku.okinawa.jp/tourism\\_culture/1134/730](http://www.city.tomigusuku.okinawa.jp/tourism_culture/1134/730)



### おきなわワールド文化王国・玉泉洞(会社・自然・民俗)

〒901-0616 沖縄県南城市玉城字前川1336 ☎ 098-949-7421  
[開館時間] 午前9時～午後6時  
[休館日] 年中無休  
<https://www.gyokusendo.co.jp/okinawaworld/>

### 八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館(町立・歴史民俗)

〒901-0512 島尻郡八重瀬町字具志頭352 ☎ 098-835-7500 FAX 098-835-7501  
[開館時間] 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
[休館日] 毎週火曜日・慰霊の日 6/23・年末年始 12/28～1/4

### ひめゆり平和祈念資料館(財団・歴史)

〒901-0344 糸満市字伊原671-1 ☎ 098-997-2100 FAX 098-997-2102  
[開館時間] 午前9時～午後5時30分  
[休館日] 年中無休  
<http://www.himeyuri.or.jp/JP/top.html>

### 沖縄県平和祈念資料館(県立・歴史)

〒901-0333 糸満市字摩文仁614-1 ☎ 098-997-3844 FAX 098-997-3947  
[開館時間] 午前9時～午後5時  
[休館日] 年中無休  
<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/index.html>

### 久米島博物館(町立・総合)

〒901-3121 久米島町字嘉手苅542番地 ☎ 098-896-7181 FAX 098-896-7182  
[開館時間] 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
[休館日] 毎週月曜日・国民の祝日(5/5と11/3は開館)・年末年始の休日

### 南大東村立ふるさと文化センター(村立・民俗資料)

〒901-0005 島尻郡南大東村字在所317 ☎ 09802-2-2815  
[開館時間] 午前9時～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日・年末年始(12/29～1/3)・教育委員会の許可があれば開館する日  
<http://www.city.uruma.lg.jp/culture/139/1277/1282>

### 宮古島市総合博物館(市立・総合)

〒906-0011 宮古島市東仲宗根添1166-287 ☎ 0980-73-0567 FAX 0980-73-0822  
[開館時間] 午前9時～午後4時30分  
[休館日] 毎週月曜日及び国民の祝祭日(ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日)6月23日(慰霊の日)・12月29日～1月3日  
<https://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/kyouiku/syougaiagakusyu/hakubutsukan/>

### 多良間村ふるさと民俗学習館(村立・民俗)

〒906-0602 宮古郡多良間村字仲筋1098-1 ☎ 0980-79-2223 FAX 0980-79-2223  
[開館時間] 午前9時～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日・国民の祝祭日・慰霊の日6月23日・年末年始  
<http://www2.miyako-ma.jp/takyoui/furusato.htm>

### 石垣市立八重山博物館(市立・歴史)

〒907-0004 石垣市登野城4-1 ☎ 0980-82-4712 FAX 0980-82-4712  
[開館時間] 午前9時～午後4時30分  
[休館日] 毎週月曜日・祝祭日・年末年始12/29～1/3・慰霊の日 6/23・燻蒸・展示替え等・館長の定める日  
<http://www.city.ishigaki.okinawa.jp/400000/410000/410500/top.html>

# 県内公共図書館等一覧

## 国頭村立中央公民館図書室

〒905-1411 沖縄県国頭村字辺土名112  
☎ 0980-41-5308

## 恩納村文化情報センター

〒904-0415 恩納村字仲泊1656番地8 ☎ 098-982-5432  
[開館時間] 火～金/午前10時～午後7時(観光フロア午後6時まで)  
土・日・祝日/午前10時～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始(12月28日から翌年1月3日まで)・  
6月23日(慰霊の日)の翌日、その他館長が必要と認めた日・図書情報  
フロアのみ・第3木曜日(資料整理日)・毎年1回・15日以内で館長が  
指定する日(特別整理期間)  
<http://www.onna-culture.jp/cultural-information-center/>

## 東村立中央公民館図書

〒905-1204 沖縄県東村字平良550-4  
☎ 0980-43-2130  
[開館時間] 月・水・木・金/午前10時～午後7時  
土・日/午前9時～午後5時  
[休館日] 火曜日・祝祭日・慰霊の日・年末年始  
<http://www.vill.higashi.okinawa.jp/detail.jsp?id=37933&menuid=8550&funcid=1>

## 伊平屋村離島振興総合センター図書室

〒905-0703 沖縄県島尻郡伊平屋村我喜屋300  
☎ 0980-46-2806

## 今帰仁村立図書館

〒905-0411 今帰仁村天底91  
☎ 0980-56-3898 FAX 098-875-1772  
[開館時間] 火～日/午前11時～午後7時  
[休館日] 毎週月曜日・祝日・(慰霊の日)・  
整理休館日(第3金曜日)・蔵書点検期間・年末年始  
<http://nakitoshokan.nakijin.ed.jp/>

## 伊江村中央公民館図書室

〒905-0501 沖縄県国頭郡伊江村東江上75  
☎ 0980-49-2334

## 本部町立図書館

〒905-0212 国頭郡本部町字大浜874-1  
☎ 0980-47-2105  
[開館時間] 火～金/午前9時～午後6時  
土・日/午前9時～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日  
<http://motobu-m.town.motobu.okinawa.jp/libraryworks>

## うるま市立中央図書館

〒904-2221 沖縄県うるま市字平良川128番地  
☎ 098-974-1112 FAX 098-974-3505  
[開館時間] 火～金/午前10時～午後7時  
土・日/午前10時～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日  
<https://www.city.uruma.lg.jp/culture/140/3260/3261>

## 名護市立中央図書館

〒905-0011 名護市宮里5-6-1  
☎ 0980-53-7246 FAX 0980-52-2607  
[開館時間] 火～日/午前9時30分～午後7時  
[休館日] 毎週月曜日・整理休館日(毎月第4木曜日)・  
年末年始・蔵書点検期間(毎年9～10月頃)  
<http://www.city.nago.okinawa.jp/library/>

## うるま市立石川図書館

〒904-1107 沖縄県うるま市石川曙2丁目1番55号  
☎ 098-964-5166 FAX 098-964-5608  
[開館時間] 火～金/午前10時～午後7時  
土・日/午前10時～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日  
<https://www.city.uruma.lg.jp/culture/140/3260/3262>

## 宜野座村文化センター図書館

〒904-1302 国頭郡宜野座村字宜野座314-1  
☎ 098-983-2611  
[開館時間] 月・水～金/午前10時～午後7時  
土・日・祝日/午前10時～午後5時  
[休館日] 火曜日・資料整理日(毎月第4木曜日)・  
沖縄慰霊の日・特別資料整理期間・年末年始  
<http://www.ginoza-bunka.jp/library/index.html>

## うるま市立勝連図書館

〒904-2312 沖縄県うるま市勝連平安名3047番地  
☎ 098-978-4321 FAX 098-978-4075  
[開館時間] 火～金/午前10時～午後6時  
土・日/午前10時～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日  
<https://www.city.uruma.lg.jp/culture/140/3260/3263>

## 金武町立図書館

〒904-1201 国頭郡金武町字金武1827  
☎ 098-968-5004 FAX 098-968-5032  
[開館時間] 火～金/午前10時～午後7時  
土・日/午前10時～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日  
<http://kin-lib.town.kin.okinawa.jp/>

## うるま市立与那城地区公民館図書室

〒904-2304 沖縄県うるま市与那城屋慶名467-4  
☎ 098-978-6836

**読谷村立図書館**

〒 904-0322 中頭郡読谷村字波平37 ☎ 098-958-3113  
 [開館時間] 月・水～金/午前10時～午後7時  
 土・日/午前10時～午後5時  
 [休館日] 毎週火曜日・祝日・慰霊の日・資料整理日(毎月第4木曜日)・  
 資料特別整理期間・年末年始  
 臨時休館(館長が特に必要と認めた日)火曜日・第4木曜日が祝日に  
 あたるときは、その翌日休館  
<http://www.vill.yomitan.okinawa.jp/facilities/post-30.html>

**浦添市立図書館**

〒 901-2114 浦添市字安波茶2-2-1  
 ☎ 098-876-4946 FAX 098-875-1772  
 [開館時間] 午前9時30分～午後7時  
 [休館日] 月曜日・祝日及び6月23日・定例館内資料整理日  
 年末年始(12月29日～1月3日)・蔵書点検等  
<http://library.city.urasoe.lg.jp/>

**嘉手納町立図書館**

〒 904-0203 中頭郡嘉手納町字嘉手納290-9 ロータリープラザ4F  
 ☎ 098-957-2470  
 [開館時間] 火～金/午前9時～午後8時  
 土・日/午前10時～午後6時  
 [休館日] 月曜日及び国民の祝日・年末年始(12月29日～1月3日)  
 ※特別整理期間は掲示板にて表示します。  
<http://www.town.kadena.okinawa.jp/rotaryplaza/tosyokan.html>

**西原町立図書館**

〒 903-0111 中頭郡西原町字与那城152-5  
 ☎ 098-944-4996 FAX 098-944-4997  
 [開館時間] 火～金/午前10時～午後7時  
 土・日/午前10時～午後5時  
 [休館日] 毎週月曜日  
<http://library.town.nishihara.okinawa.jp/>

**沖縄市立図書館**

〒 904-0031 沖縄市字上地235-3  
 ☎ 098-932-6881  
 [開館時間] 火～金/午前9時30分～午後8時  
 土・日/午前9時30分～午後6時  
 [休館日] 毎週月曜日  
<https://www.city.okinawa.okinawa.jp/lib/>

**沖縄県立図書館**

〒 902-0064 那覇市寄宮1-2-16  
 ☎ 098-834-1218  
 [開館時間] 平日/午前9時30分～午後7時  
 土・日/午前9時30分～午後5時  
 [休館日] 年中無休  
<http://www.library.pref.okinawa.jp/index.jsp>

**北谷町立図書館**

〒 904-0103 中頭郡北谷町字桑江467-1  
 ☎ 098-936-3542 FAX 098-936-4567  
 [開館時間] 火～金/午前9時～午後8時  
 土・日/午前9時～午後5時  
 [休館日] 月曜日・祝日(月曜祝日の場合は翌日も休館)・第4木曜日・  
 6月23日(慰霊の日)・9月16日から9月30日(蔵書点検期間)  
 12月29日から翌年1月3日  
<http://www.chatana.jp/kosodate/library/>

**那覇市立中央図書館**

〒 902-0064 那覇市寄宮1-2-15  
 ☎ 098-917-3449 FAX 098-835-2158  
 [開館時間] 平日(火～金)/午前9時30分～午後7時  
 土曜日/午前9時30分～午後6時  
 日曜日/午前9時30分～午後5時  
 (中央館は午前9時30分～午後6時)  
 [休館日] 毎週月曜日  
<http://www.edu.city.naha.okinawa.jp/lib/index.html>

**あやかりの杜図書館**

〒 901-2311 中頭郡北中城村字喜舎場1214  
 ☎ 098-983-8060 FAX 098-875-1772  
 [休館日] 毎週月曜日・館内資料整理日・毎月第1水曜日  
<http://www.ayakari.jp/menuIndex.jsp?id=70327&menuid=14002&funcid=28>

**那覇市立牧志駅前ほしぞら図書館**

〒902-0067 沖縄県那覇市安里2-1-1  
 ☎ 098-917-3450 FAX 098-866-9243  
 [開館時間] 平日(月～木)午前9時30分～午後7時  
 土曜日/午前9時30分～午後6時  
 日曜日/午前9時30分～午後5時  
 [休館日] 毎週金曜日  
 ブックポストは午前9時～午後9時まで利用可能です。  
<http://www.edu.city.naha.okinawa.jp/lib/n-bun-makisi.html>

**中城村護佐丸歴史資料図書館**

〒 901-2407 中城村字安里215番地 ☎ 098-895-5302  
 [開館時間]【資料図書室】月・水～金・祝日/午前10時～午後7時  
 ※土日に祝日があたる時は午後5時閉館  
 土・日/午前10時～午後5時  
 【中城歴史展示室】午前10時～午後5時  
 [休館日] 毎週火曜日・祝日の翌平日・慰霊の日・年末年始・  
 資料整理日(毎月第3木曜日) ※祝日にあたる時は翌平日の開館日  
 特別資料整理期間(年1回、15日以内で館長が指定する日)  
<http://www.vill.nakagusuku.okinawa.jp/detail.jsp?id=75081&menuid=14672&funcid=1>

**那覇市立小禄南図書館**

〒901-0145 沖縄県那覇市高良2-7-1  
 ☎ 098-917-3451 FAX 098-857-2986  
 [開館時間] 平日(火～金)午前9時30分～午後7時  
 土曜日/午前9時30分～午後6時  
 日曜日/午前9時30分～午後5時  
 [休館日] 毎週月曜日  
<http://www.edu.city.naha.okinawa.jp/lib/n-bun-oroku.html>

**宜野湾市民図書館**

〒 901-2214 宜野湾市字我如古3-4-10  
 ☎ 098-897-4646 FAX 098-897-5642  
 [開館時間] 水～日/午前10時～午後7時  
 月 /午前10時～午後5時  
 [休館日] 毎週火曜日  
<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/organization/shimintoshokan/1219>

**那覇市立首里図書館**

〒903-0812 沖縄県那覇市首里当蔵町2-8-2  
 ☎ 098-917-3452 FAX 098-885-9247  
 [開館時間] 平日(月～木)午前9時30分～午後7時  
 土 /午前9時30分～午後6時  
 日 /午前9時30分～午後5時  
 [休館日] 毎週金曜日  
<http://www.edu.city.naha.okinawa.jp/lib/n-bun-shuri.html>



# 県内公共図書館等一覧

## 那覇市立若狭図書館

〒900-0031 沖縄県那覇市若狭2-12-1  
☎ 098-917-3453 FAX 098-860-1246  
[開館時間] 平日(火～金)午前9時30分～午後7時  
土曜日/午前9時30分～午後6時  
日曜日/午前9時30分～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日  
<http://www.edu.city.naha.okinawa.jp/lib/n-bun-wakasa.html>

## 豊見城市立中央図書館

〒901-0232 豊見城市字伊良波392  
☎ 098-856-6006 FAX 098-856-8044

## 那覇市立石嶺図書館

〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町2-70-9  
☎ 098-917-3454 FAX 098-855-9625  
[開館時間] 平日(火～金)午前9時30分～午後7時  
土曜日/午前9時30分～午後6時  
日曜日/午前9時30分～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日  
<http://www.edu.city.naha.okinawa.jp/lib/n-bun-isimine.html>

## 南城市立知念図書館

〒901-1511 南城市知念字久手堅700  
☎ 098-948-7340  
[開館時間] 平日(月・水～金)/午前9時～午後6時  
土・日/午前9時～午後5時  
※12時～13時は閉館します  
(知念図書館以外の他3館)。  
[http://library.city.nanjo.okinawa.jp/WebLib/\(S\(s011orwh1430xfexpfcexhii\)\)/Default.aspx](http://library.city.nanjo.okinawa.jp/WebLib/(S(s011orwh1430xfexpfcexhii))/Default.aspx)

## 那覇市立繁多川図書館

〒902-0071 沖縄県那覇市繁多川4-1-38  
☎ 098-917-3455 FAX 098-853-6010  
[開館時間] 平日(月～木)午前9時30分～午後7時  
土日/午前9時30分～午後6時  
[休館日] 毎週金曜日  
<http://www.edu.city.naha.okinawa.jp/lib/n-bun-hanta.html>

## 南城市立図書館佐敷分館

〒901-1403 沖縄県南城市佐敷字佐敷307 シュガーホール  
(南城市文化センター内)  
☎ 098-917-5543  
[開館時間] 平日(火～金)/午前9時～午後6時まで  
(うち12時～午後1時は休室時間)  
土・日/午前9時～午後5時まで  
(うち12時～午後1時は休室時間)  
<http://library.city.nanjo.okinawa.jp/>

## 南風原町立図書館

〒901-1113 南風原町字喜屋武236番地  
☎ 098-889-6400 FAX 098-888-3265  
<http://www.town.haebaru.lg.jp/bunya/chuokominkan/>

## 南城市立図書館玉城分館

〒901-0611 南城市玉城字富里167(玉城中央公民館2階)  
☎ 098-948-7320  
[開館時間] 平日(火～金)/午前9時～午後6時まで  
(うち12時～午後1時は休室時間)  
土・日/午前9時～午後5時まで  
(うち12時～午後1時は休室時間)  
<http://library.city.nanjo.okinawa.jp/>

## 沖縄県公文書館

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町新川148-3  
☎ 098-888-3875 FAX 098-888-3879  
[開館時間] 火～日:午前9時～午後5時まで  
[休館日] 毎週月曜日  
<http://www.archives.pref.okinawa.jp/>

## 南城市立図書館大里分館

〒901-1206 南城市大里字仲間928  
☎ 098-917-5332  
[開館時間] 平日(月・水～金)/午前9時～午後6時まで  
(うち12時～午後1時は休室時間)  
土・日/午前9時～午後5時まで  
(うち12時～午後1時は休室時間)  
<http://library.city.nanjo.okinawa.jp/>

## 与那原町立図書館

〒901-1303 島尻郡与那原町与那原712  
☎ 098-946-6959 FAX 098-946-6970

## 八重瀬町中央公民館図書館

〒901-0401 沖縄県島尻郡八重瀬町字東風平1014  
☎ 098-998-8383  
[開館時間] 火～日/午前10時～午後8時  
[休館日] 毎週月曜日  
<http://www.town.yaese.lg.jp/docs/2014032000257/>



### 八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館図書室

〒901-0512 沖縄県島尻郡八重瀬町字具志頭352  
☎ 098-998-8708  
[開館時間] 火～日/午前10時～午後6時  
[休館日] 毎週月曜日  
<http://www.town.yaese.lg.jp/docs/2014032000257/>

### 宮古島市下地公民館図書室

〒901-2311 中頭郡北中城村字喜舎場1214  
☎ 0980-76-6017

### 糸満市立中央図書館

〒901-0362 糸満市字真栄里1448  
☎ 098-995-3746  
<http://www.city.itoman.lg.jp/bunya/shisetsuannai/chuotoshokan/>

### 宮古島市伊良部公民館図書室

〒906-0501 沖縄県宮古島市伊良部字前里1057  
☎ 0980-78-3558

### 粟国村中央公民館図書室

〒901-3702 沖縄県島尻郡粟国村東580  
☎ 098-988-2449

### 多良間村立図書館

〒906-0601 宮古郡多良間村字塩川165  
☎ 0980-79-2555 FAX 0980-79-2555  
[開館時間] 火～日/午前9時～午後6時  
[休館日] 定期休館日・毎週月曜日・休日(祝日)・  
慰霊の日(6月23日)・年末年始・館内整理期間  
<http://www.vill.tarama.okinawa.jp/?cat=114>

### 宮古島市立図書館 ※2019年7月開館予定

906-0007 宮古島市平良東仲宗根807番地  
宮古島市未来創造センター内  
☎ 0980-72-2235 FAX 0980-73-1136  
[開館時間] 平日(火～金)/午前10時～午後7時(児童室は6時まで)  
土曜日/午前10時～午後6時  
日曜日/午前10時～午後5時  
<https://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/kyouiku/syougaiakusyu/tosyokan/>

### 石垣市立図書館

〒907-0013 石垣市浜崎町1-1 ☎ 0980-83-3862  
[開館時間] 平日/午前10時～午後7時  
土・日/午前10時～午後5時  
[休館日] 毎週月曜日定休・資料整理日(毎月第4金曜)・  
祝日・年末年始・慰霊の日  
<http://www.city.ishigaki.okinawa.jp/400000/410000/410600/lihomepage/>

### 宮古島市立図書館(城辺分館)

〒906-0103 宮古島市城辺字福里377-1  
☎ 0980-77-8813 FAX 0980-77-8813  
[開館時間] 平日(火～金)/午前10時～午後6時  
土曜日/午前10時～午後6時  
日曜日/午前10時～午後5時  
<https://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/kyouiku/syougaiakusyu/tosyokan/>

### 与那国町中央公民館図書室

〒907-1801 与那国町与那国125  
☎ 0980-87-2002

### 宮古島市上野農村環境改善センター

〒906-0304 沖縄県宮古島市下地字上地628-1  
☎ 0980-76-6017

### 国立国会図書館

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
☎ 03-3581-2331  
[開館時間] 月～金/午前9時30分～午後7時  
土/午前9時30分～午後5時  
<http://www.ndl.go.jp/>

# 用語集

**東又窯** <sup>あがり かま</sup> <sup>な は し つ ば や</sup> <sup>ひがしがわ</sup> <sup>のぼ</sup> <sup>がま</sup> <sup>せんぜん</sup> <sup>きず</sup>  
那覇市壺屋の東側にある登り窯。戦前に築かれ  
た上焼の窯としては唯一、ほぼ完全な形で残っている。

**字坂名城** <sup>あざはなぐすく</sup> <sup>しまじりぐん</sup> <sup>や</sup> <sup>え</sup> <sup>せちやうぐしちやん</sup> <sup>しゅうらく</sup>  
島尻郡八重瀬町具志頭にある集落。

**按司** <sup>あ</sup> <sup>じ</sup> <sup>せい</sup> <sup>き</sup> <sup>たんじやう</sup> <sup>ちいき</sup> <sup>しはいしや</sup>  
13世紀ごろに誕生した地域の支配者。

**阿波連浦下層式土器** <sup>あ</sup> <sup>は</sup> <sup>れん</sup> <sup>うら</sup> <sup>か</sup> <sup>そう</sup> <sup>しき</sup> <sup>ど</sup> <sup>き</sup> <sup>む</sup> <sup>もん</sup> <sup>そこ</sup> <sup>ふか</sup> <sup>ばち</sup>  
無文で底がとがった形をした深鉢  
形。「く」の字の頸部が特徴。

**阿麻和利** <sup>あ</sup> <sup>ま</sup> <sup>わり</sup> <sup>せい</sup> <sup>ねん</sup> <sup>みしやう</sup> <sup>ぼつ</sup> <sup>せい</sup> <sup>き</sup> <sup>かつ</sup>  
生年未詳、1458年没。15世紀中ごろの勝  
連城主。国王・尚泰久の娘、百度踏揚と結婚した。中城  
城主の護佐丸を討ち、続いて首里を攻略しようとしたが、  
ももとふみあがり うにうぶぐく さつち しゅり ころやく  
百度踏揚と鬼大城に察知され、首里から派遣された軍勢  
に滅ぼされたと言われている。(護佐丸・阿麻和利の変)

**荒焼** <sup>あ</sup> <sup>ら</sup> <sup>や</sup> <sup>ち</sup> <sup>お</sup> <sup>き</sup> <sup>な</sup> <sup>わ</sup> <sup>と</sup> <sup>う</sup> <sup>き</sup> <sup>し</sup> <sup>ゆ</sup> <sup>る</sup> <sup>い</sup> <sup>む</sup> <sup>ゆ</sup> <sup>う</sup> <sup>で</sup> <sup>い</sup> <sup>ゆ</sup> <sup>う</sup>  
沖縄陶器の種類。無釉もしくは泥釉、マンガン釉  
を掛けた焼締め陶器の総称。

**アンボンクロザメ** <sup>あ</sup> <sup>ん</sup> <sup>ぼ</sup> <sup>ん</sup> <sup>く</sup> <sup>ろ</sup> <sup>ざ</sup> <sup>め</sup> <sup>い</sup> <sup>も</sup> <sup>が</sup> <sup>い</sup> <sup>科</sup> <sup>の</sup> <sup>ま</sup> <sup>ま</sup> <sup>が</sup> <sup>い</sup> <sup>か</sup> <sup>く</sup> <sup>ち</sup> <sup>う</sup>  
イモガイ科の巻貝。殻長は12cm  
程度になる。

**碇** <sup>い</sup> <sup>かり</sup> <sup>と</sup> <sup>ど</sup> <sup>し</sup> <sup>ず</sup> <sup>き</sup> <sup>ぐ</sup> <sup>じゅうりやう</sup>  
船を留めるために水中に沈める器具。重量があり、  
水底に引っ掛かる構造をしている。

**遺構再現整備** <sup>い</sup> <sup>こう</sup> <sup>ざい</sup> <sup>げん</sup> <sup>せい</sup> <sup>び</sup> <sup>そく</sup> <sup>りやう</sup> <sup>ざ</sup> <sup>りやう</sup> <sup>と</sup> <sup>う</sup> <sup>は</sup> <sup>つ</sup> <sup>く</sup> <sup>ちやう</sup> <sup>さ</sup> <sup>き</sup> <sup>ろく</sup> <sup>も</sup> <sup>と</sup>  
測量座標や図面等の発掘調査記録を基に、  
遺構を再現する形で整備したもの。

**石囲墓** <sup>い</sup> <sup>しか</sup> <sup>い</sup> <sup>ぼ</sup> <sup>じん</sup> <sup>こつ</sup> <sup>ま</sup> <sup>わ</sup> <sup>か</sup> <sup>こ</sup> <sup>は</sup> <sup>か</sup>  
人骨の周りや一部を石で囲った墓。

**石切場** <sup>い</sup> <sup>し</sup> <sup>き</sup> <sup>り</sup> <sup>ば</sup> <sup>せ</sup> <sup>き</sup> <sup>ざい</sup> <sup>お</sup> <sup>き</sup> <sup>な</sup> <sup>わ</sup> <sup>けん</sup> <sup>か</sup> <sup>い</sup> <sup>がん</sup> <sup>せ</sup> <sup>つ</sup> <sup>かい</sup> <sup>がん</sup>  
石材を切り出すところ。沖縄県の海岸は石灰岩  
地帯が多く、建築用資材等として切り出された。

**石敷住居跡** <sup>い</sup> <sup>し</sup> <sup>き</sup> <sup>じゅう</sup> <sup>きょ</sup> <sup>あ</sup> <sup>と</sup> <sup>ほ</sup> <sup>さ</sup> <sup>ちゅう</sup> <sup>か</sup> <sup>めん</sup> <sup>し</sup> <sup>つ</sup> <sup>か</sup> <sup>めん</sup> <sup>へ</sup> <sup>た</sup> <sup>い</sup>  
地面を掘り下げて半地下にし、床面に平た  
い石を敷き詰めた住居の跡。

**石畳道** <sup>い</sup> <sup>し</sup> <sup>だ</sup> <sup>た</sup> <sup>み</sup> <sup>ち</sup> <sup>し</sup> <sup>つ</sup> <sup>つ</sup> <sup>つ</sup>  
平らな面を上にして石を敷き詰めた道。

**石ノミ** <sup>い</sup> <sup>し</sup> <sup>せ</sup> <sup>せい</sup> <sup>ひん</sup> <sup>と</sup> <sup>う</sup> <sup>か</sup> <sup>こう</sup> <sup>ちゅう</sup> <sup>こく</sup>  
石製品等を加工、彫刻するための道具。石で作  
られたノミ。

**石蒸し料理** <sup>い</sup> <sup>し</sup> <sup>む</sup> <sup>りやう</sup> <sup>り</sup> <sup>や</sup> <sup>た</sup> <sup>い</sup> <sup>た</sup> <sup>と</sup> <sup>う</sup>  
多数の焼いた石の上に大きなバナナ等の葉  
で包んだ食材をのせて蒸す調理法。

**糸蒲寺** <sup>いと</sup> <sup>か</sup> <sup>まで</sup> <sup>ら</sup> <sup>た</sup> <sup>た</sup> <sup>た</sup> <sup>た</sup> <sup>か</sup> <sup>ふ</sup> <sup>めい</sup> <sup>りゅう</sup> <sup>きゅう</sup> <sup>こく</sup> <sup>ゆ</sup> <sup>らい</sup> <sup>き</sup>  
いつ建てられたか不明。『琉球国由来記』(1713  
年)によると、1700年代にすでに寺が無いことがわか  
る。日本からの渡海僧が住職をしていたが、ある時、箱  
の中に「消え」、その直後に寺が炎上したという伝説が  
ある。

**伊波貝塚** <sup>い</sup> <sup>は</sup> <sup>かい</sup> <sup>づか</sup> <sup>い</sup> <sup>は</sup> <sup>し</sup> <sup>せ</sup> <sup>き</sup>  
うるま市石川伊波にある国指定の史跡。

**伊波式土器** <sup>い</sup> <sup>は</sup> <sup>し</sup> <sup>き</sup> <sup>ど</sup> <sup>き</sup> <sup>い</sup> <sup>は</sup> <sup>かい</sup> <sup>づか</sup> <sup>し</sup> <sup>つ</sup> <sup>ど</sup> <sup>ど</sup> <sup>き</sup>  
うるま市石川の伊波貝塚から出土した土器  
に代表される形式の土器。平底の深鉢形が多い。縄文時  
代後期の土器で沖縄諸島及び周辺離島に分布する。

**遺物散布地** <sup>い</sup> <sup>ぶ</sup> <sup>つ</sup> <sup>さん</sup> <sup>ぶ</sup> <sup>ち</sup> <sup>い</sup> <sup>ぶ</sup> <sup>つ</sup> <sup>さん</sup> <sup>ら</sup> <sup>ん</sup> <sup>い</sup> <sup>つ</sup> <sup>ぱん</sup>  
遺物が地表面に散乱している場所を一般に  
遺物散布地と呼んでいる。

**イモガイ** <sup>い</sup> <sup>も</sup> <sup>が</sup> <sup>い</sup> <sup>さ</sup> <sup>ん</sup> <sup>ご</sup> <sup>こう</sup> <sup>の</sup> <sup>う</sup> <sup>み</sup> <sup>で</sup> <sup>採</sup> <sup>れ</sup> <sup>る</sup> <sup>ま</sup> <sup>が</sup> <sup>い</sup> <sup>主</sup> <sup>に</sup> <sup>女</sup> <sup>性</sup> <sup>用</sup> <sup>の</sup>  
サンゴ礁の海で採れる巻貝。主に、女性用の  
腕輪に加工されたが、遠く北海道の礼文島では、イモガ  
イ製のペンダントが出土している。弥生～平安並行時代  
I～II期、沖縄で採れたイモガイやゴホウラは交易品と  
して、九州をはじめ全国各地に広がっていったと考えら  
れる。

**『遺老説傳』** <sup>い</sup> <sup>ろう</sup> <sup>せつ</sup> <sup>でん</sup> <sup>りゅう</sup> <sup>きゅう</sup> <sup>こく</sup> <sup>かく</sup> <sup>ち</sup> <sup>と</sup> <sup>古</sup> <sup>く</sup> <sup>から</sup> <sup>伝</sup> <sup>わ</sup> <sup>る</sup> <sup>民</sup> <sup>話</sup> <sup>や</sup> <sup>自</sup> <sup>然</sup> <sup>現</sup> <sup>象</sup>  
琉球国各地に古くから伝わる民話や自然現  
象の異変などについてまとめた本。『球陽』の外巻として、  
これと同じ頃に編集されたと考えられる。

**岩陰墓・岩陰囲込墓** <sup>い</sup> <sup>わ</sup> <sup>かげ</sup> <sup>ぼ</sup> <sup>い</sup> <sup>わ</sup> <sup>かげ</sup> <sup>い</sup> <sup>こ</sup> <sup>み</sup> <sup>ぼ</sup> <sup>い</sup> <sup>わ</sup> <sup>かげ</sup> <sup>い</sup> <sup>し</sup> <sup>づ</sup> <sup>か</sup> <sup>こ</sup> <sup>い</sup> <sup>たい</sup>  
岩陰などを石積みで囲い、遺体や  
遺骨を納めた厨子甕等を納めた墓。集落単位  
の墓所として用いられることが多い。グスク時代から見られ、近世  
に多い。

**上杉茂憲県令** <sup>う</sup> <sup>え</sup> <sup>す</sup> <sup>ぎ</sup> <sup>も</sup> <sup>ち</sup> <sup>の</sup> <sup>り</sup> <sup>けん</sup> <sup>れい</sup> <sup>ぼ</sup> <sup>つ</sup> <sup>よ</sup> <sup>ね</sup> <sup>ざ</sup> <sup>わ</sup> <sup>はん</sup>  
1844年生まれ、1919年没。米沢藩の  
13代藩主。1881(明治14)年から1883(明治16)  
年まで第2代沖縄県令を務めた。沖縄の実状を知るため  
に、県内のほとんどの地域を視察した。その記録を『上  
杉県令巡回日誌』として著している。

**ウガン** <sup>う</sup> <sup>が</sup> <sup>ん</sup> <sup>う</sup> <sup>が</sup> <sup>ん</sup> <sup>じり</sup> <sup>こう</sup> <sup>さん</sup> <sup>しやう</sup> <sup>う</sup> <sup>た</sup> <sup>き</sup>  
「拝所」の項参照。御嶽。

**拝所** 神霊が依りついたとされる聖域で、人が拝むところ。

**浮道** 石やレンガを敷き周囲より高くつくられた道。

**宇佐浜式土器** 国頭村宇佐浜遺跡で最初に出土した縄文時代晩期の土器。壺形が多く口縁部が肥厚し底部は尖底が多い。

**鬼大城** 生没年未詳。尚泰久王に仕えた武将。大城賢勇が名前。勝連城主の阿麻和利討伐の際に総大将となり、阿麻和利を滅ぼした。その後、越來城主となり、百度踏揚を妻としたが、第一尚氏王統の終わりとともに滅んだといわれている。

**浦添グスク・ようどれ館** 国指定史跡「浦添城跡」の施設。浦添グスクと浦添ようどれの発掘調査の出土品や、戦前のパネルなどを展示している。浦添ようどれ西室（英祖王陵）内部を実物大で復元し、県指定文化財「浦添ようどれの石厨子」のレプリカ（模型）も展示している。

**浦底遺跡** 宮古島市城辺浦底に位置する今から2800～900年前の「無土器期」の遺跡。製作途上品も加えると200点余りのシャコガイ製貝斧が出土している。

**漆** ウルシの樹皮に傷をつけて採取した樹液（生漆）に、油・着色剤などを加えて精製した塗料。乾燥すると硬い膜を作り、水や酸に強くなることから長持ちする。「百按司墓」から発見された木棺には、朱漆が塗られていた。

**英祖王** 1229年生まれ、1299年没。母親が、太陽の夢をみて英祖が生まれたという伝説があることから、「太陽の子（てだこ）」と呼ばれている。1260年、王となり浦添を中心とする地域を支配した。その後、久米島、慶良間、伊平屋や奄美大島も治めた。

**塩田** 海の水を蒸発させて塩をとるために、砂浜に設けた区画。

**汪応祖** 生年未詳、1414年没。山南王統の王。在位11年（1404年～1414年）。山南王となる前に豊見城グスクを築き、ハーリーを行ったという伝承が残る。

**大宜味村農村環境改善センター** ホールや会議室、研修室、調理実習室などがある地域住民の交流の場。大宜味村の工芸展「いぎみていぐま」等、様々なイベントが行われている。

**大美御殿** もとは、尚清王（1497年生まれ、1555年没）が世子時代の別邸として使用された。その後、首里城内の女性の休養・産所・または冠婚葬祭などの儀式を行う場所となり、1853年にはペリー一行の接待も行われている。現在は県立首里高等学校となっている。

**大山式土器** 宜野湾市の大山貝塚から出土した土器に代表される形式の土器。深鉢形が多く平底。縄文時代後期の土器で、沖縄島及び周辺離島に分布。

**大山盛保** 1912（大正元）年生まれ、1996（平8）年没。港川人の発見者。戦後の沖縄で実業家として活躍する傍ら、県内各地で数多くの化石産出地を発見し、家族や社員、研究者らとともに調査した。

**荻堂貝塚** 北中城村荻堂にある国指定の史跡。

**荻堂式土器** 北中城村の荻堂貝塚から出土した土器に代表される形式の土器。平底の深鉢形が多く、口縁に四つ山の山形突起を持つ。縄文時代後期の土器で沖縄諸島及び周辺離島に分布する。

**押引文土器** 土器の表面にわりばし状の工具で押したり引いたりして付けた模様（押引文）を持つ土器。

**尾根筋** 山の頂上に続く土地の高い部分の連なり。

『おもろさうし』 沖縄の最古歌謡集。「おもろ」とは、奄美・沖縄諸島に伝わる古い歌謡のことで、およそ12世紀から17世紀ごろにわたって各地で歌われた。首里王府がこれを編集したもので、全22巻からなり1554首が収録されている。本文は五行あて仮名まじり文。古文献が少ない沖縄の古代を探る上で貴重な資料。

**オヤケアカハチ** 生没年未詳。波照間島の生まれと伝わる。15世紀末、石垣島大浜村に居をかまえ、近隣を制圧して宮古勢とも対立。その後、首里王府に反旗をひるがえしたが、1500年、首里王府軍と宮古の仲宗根豊見親の軍勢によって倒された。



かいきるい かいがら  
**貝器類** 貝殻でつくった道具。

かいげんつうほう ちゅうごく とうだい ちゅうぞう  
**開元通宝** 中国の唐代(618～907年)に鑄造された  
どうせん なかま かいづか いりおもてしま おきなわしやう  
**銅銭**。仲間第一貝塚(西表島)の他、沖縄諸島では8遺  
せき  
跡から発見されている。

かいさじ  
**貝匙** ヤコウガイを加工して作った杓子やスプーンの形  
に似た製品。

がいそうぼ がいけ ちゅうぶく いわかげ りやう ぼち  
**崖葬墓** 崖の中腹にある岩陰を利用した墓地。

かいづか かいがら りやう つ じやうたい  
**貝塚** 食べた後の貝殻が、大量に積み重なった状態をい  
う。貝殻だけでなく、ぎよこつ じゅうこつ にちじやう  
魚骨・獣骨や、日常生活に用いら  
れた土器・石器・貝製品・骨製品なども含まれているこ  
とが多い。

かいとうしよこくき  
『**海東諸国記**』 1471年に、しんしゆくしやう ちやうせん めいれい  
申叔舟が朝鮮王の命令を受  
けて著した書。かいとうしよこく  
海東諸国というのは、日本本国・九州・  
い きつしま りやうきやうこく れきし  
壹岐対馬・琉球国のことで、これらの国の地理や歴史な  
どをかいせつ  
解説している。この書に付けられた「琉球国之図」  
は 1453年に作成されたもので、琉球最古の地図である。

かいふ かいさつ いたじやう かこう もんやう ほど  
**貝符(貝札)** 貝を板状に加工し、文様が施されたもの。  
そうしんぐ りやう  
装身具として利用されたと考えられる。

かいぼうがくてき いち かんげい  
**解剖学的な位置関係** 動物が生きている時、ほね かんせつ  
骨が関節で  
つながっていることで生じる、ほねどうし いち かんげい ほつこつ  
骨同士の位置関係。白骨  
化した骨が、この位置関係を保っている場合、いがい し  
遺骸の姿  
勢がわかる。また、他の場所から流れ込んだものでない  
こともすいてい  
推定できる。

かくらん みだ  
**攪乱** 土の中をかき乱すこと

かじ じゆん ど せいざん ねつ う  
**鍛冶** 純度の高い鉄を生産した後、これらを熱して打ち  
きた しゆじゆ せいひん  
鍛え、種々の鉄製品をつくること。

がしつどき できいしつ はい どき おきなわ せいき わくた  
**瓦質土器** 泥質で灰色の土器。沖縄では 17世紀に湧田  
がま や  
窯で焼かれたものが多い。

かつせきせいしなべ ながさきけんにしその ぎほんとういつたい さん かつせき かこう  
**滑石製石鍋** 長崎県西彼杵半島一帯に産する滑石を加工  
して作った鍋。煮炊きを目的とし保温性に優れる。

かつせきせいすい かつせき ぎよぐ おもり  
**滑石製錘** 滑石というやわらかい石で作った、漁具の錘。

かつゆうとうき さん か ふく ゆうやく しやうせい  
**褐釉陶器** 酸化鉄を含む釉薬をかけて焼成した陶器。

か で な いとまん むす ろせん  
**嘉手納や糸満を結ぶ路線** 1922(大正11)年に那覇～  
か で な やく  
嘉手納線(約23.6km)、1923(大正12)年に那覇～糸  
まん  
満線(約18.3km)が開業した。

か とく いちしき ど き あまみ おおしませ とうちやう か とく い せき さいしよ しゆつ ど  
**嘉徳Ⅰ式土器** 奄美大島瀬戸内町嘉徳遺跡で最初に出土  
した土器。約4000年前の土器である。小型のものが多  
く煮炊き用としては不向き。

かふんぶんせき 植物の花粉は種類により形が異なるため、たい  
**花粉分析** 植物の花粉は種類により形が異なるため、堆  
せきぶつ ふく  
積物中に含まれる花粉化石を調べることにより、過去  
の植物のぶんぶん へんせん  
分布・変遷や当時の気候などを推定することがで  
きる。

かまどうぐ とうき かま や  
**窯道具** 陶器を窯で焼くときに使う道具の総称。

かみ まね さいし たてもの  
**神アシャギ** 神を招いて祭祀を行う場所や建物。

カムイヤキ あまみしやう ぞく とくのしまいせんちやう ぶん  
**カムイヤキ** 奄美諸島に属する徳之島伊仙町の山中に分  
布するカムイヤキ古窯跡群で、11～13世紀に生産さ  
れた無釉の焼締陶器。鹿兒島県の薩摩半島から琉球列島  
全域に分布する。

からぼり てき しんにゆう ふせ みぞ た  
**空堀** 敵の侵入を防ぐための溝で、水を溜めていない。

がんばん じばん  
**岩盤** 岩石でできている地盤。

きねいげんぼう ちゅうごく じだいい  
**熙寧元宝** 中国の宋時代(960～1279)の1068年か  
ら1077年の間に作られたお金。

きねいしきどき とくのしまいせんちやう きねいかいづか さいしよ しゆつ ど  
**喜念Ⅰ式土器** 徳之島伊仙町喜念貝塚で最初に出土した  
じやうもん じだいいん き どき けいぶ どうぶ は かめがた  
縄文時代晩期の土器。頸部がしまり、胴部が張る甕形の  
土器で底部は丸底と推測されている。屋久島から沖縄島  
北部まで分布する。

ぎのわんしもり かわ ぎのわんしましき ちやうすい みずあ  
**宜野湾市森の川** 宜野湾市真志喜にある湧水。水浴びを  
していた天女と奥間大親が出会い、二人の間に生まれた  
子どもが、後の祭度となったという伝説が残る。

きゆうやう おうとう てんべん ちい とう  
『**球陽**』 王統・年月順に政治、天変地異、文化等に関  
する出来事を記録した琉球の正史。尚敬王代の1745年  
には完成したが、1876年まで追記が行われた。外巻に  
いろせつてん  
『遺老説伝』がある。



**教育勅語** 天皇の**ことば**として、1890（明治23）年に発令された**国民道徳**の**基本**。戦前、日本の**教育理念**の**基礎**となった。1948（昭和23）年に**失効**。

**玉類** **翡翠**（つやのある**緑色**の**硬玉**）や**碧玉**（**不透明**で**緑・赤・黄褐色**など**色**のついた**塊状**の**石英**）のこと。古くから**勾玉**や**管玉**に用いられた。

**魚網錘** 魚をとる**網**を沈めるための**重り**。二枚貝の**殻頂**（**尖った部分**）に**穴**をあけ、**網**に**結び付けた**と考えられる。

**金武観音寺** 1522年に**日秀上人**が**建てた**と**伝えられる**寺。「**金武の寺**」と呼ばれている。

**グスク土器** **グスク時代**に**沖縄**で作られた**土器**。**鉢・鍋・壺**を**主体**とした**底部**が**広い土器**で、**カムイヤキ**や**滑石製石鍋**を**模して**作ったと考えられる。

**久高島** **沖縄島南部知念半島**の**東方**約5kmの**太平洋**上に**浮かぶ**小島。面積1.39km<sup>2</sup>、**周囲**7.75km、**最高標高**17.1m。

**管玉** **美しい石**を**加工**し**円筒形**にしたもの。**多数**連ねて**装身具**とする。

**国頭方東海道** **沖縄島**の**東岸**を通り**北部**と**中部**をつなぐ**道**。**中部**で**中頭方東海道**と**連結**し**首里**に至る**ルート**。

**くびれ平底土器** **古墳～平安並行時代**の**土器**で、**アカジャンガー式土器**と**フェンサ下層式**の**二形式**がある。いづれの**土器**も**沖縄島**及び**周辺離島**、**奄美諸島**に**分布**する。**深鉢形**で**底部**は**台状**を呈する。

**郭** **城内**の**平場**を**土塁**や**石垣**などで**囲んだ****区域**の**名称**。**曲輪**とも書く。

**慶田崎遺跡** **与那国町久部良**の**久部良小学校**北側にある**14～15世紀**の**集落遺跡**。

**県立博物館跡地** 1966（昭和41）年にそれまで**当蔵**にあった**琉球政府立博物館**が**移転**してきた**場所**。この**博物館**は、1972年の**本土復帰**に伴い**沖縄県立博物館**となり、**同館**が2007（平成19）年におもろまちへ**再度移転**するまでこの**地**にあった。

**交易** 互いに**品物**の**交換**や**売買**をすること。

**交易品** 異なる**地域**の人々の間で**交換**や**売買**の**対象**とされた**品物**。

**考古学史** **考古学**研究の**歴史**。

**構築作業** **組み立て**て**築く**作業。

**杭木** **壕内**の**壁**や**天井**を支える**支柱**用の**木材**。

**高麗青磁** **朝鮮**の**高麗王朝**（918～1392年）で作られた**青磁**。その**代表的な**ものに、**素地**に**彫った****文様**に**赤土・白土**などを**埋め込んだ****象眼青磁**がある。

**黒曜石** **火山岩**の**一種**で**沖縄**では**産出**しない。**ガラス**とよく似た**性質**を持ち、**割ると****鋭い断面**を作る。**世界各地**で**ナイフ**や**矢じり**などの**石器**として**使われた**。日本では**九州以北**の**地域**で**産出**する。

**御真影** **天皇・皇后**の**公式**の**肖像写真**。

**骨牙製品** **動物**の**骨**や**牙**（**イノシシ**など）で作った**道具**や**アクセサリ**。**古宇利原B遺跡**からは**針**や**キリ**などが**出土**している。

**ゴホウラ** **インド洋・太平洋**の**サンゴ礁**の**海**で**採れる**大きな**巻貝**。主に、**男性用**の**腕輪**に**加工**された。**交易品**としての**流通**は**イモガイ**の**項**を**参照**。

**痕跡** **以前**、**何か**があった**事**を示す**跡**。

**サーターマール** **サトウキビ**を**しぼる**ための**施設**。**円形**に**石**を敷いた**平場**に、**サトウキビ**を**しぼる****器具**（**サーターグルマ**）を**設置**して、**馬**や**牛**の**力**で**それを**回した。

**再葬** **一旦葬**った**人骨**を**別の場所**に**改めて**葬ること。

**細粒砂岩** **水底**に**たまった**砂が**固まって**できた**岩石層**。その中で**特に****硬く****固結**した**部分**を**沖縄方言**で「**ニーヌマフニ**」と呼び、**硬く****石材**として**使われる**。

**サキタリ洞** **南城市玉城字前川**にある**洞穴**。かつては**サキタルガマ**、**斗牛洞**とも**呼ばれた**。「**サキタリ**」は**酒造り**の意味で、**洞穴**で**酒造**が行われていたことに由来する。

**砂丘・砂丘地** **海岸**の**砂**が**吹きあげられて**できた**丘**。

**櫓** 木杭を並べ立ててつくった小規模の防壁。砦。

**座礁** 船が水面下の岩やサンゴ礁等に乗上げて航行できなくなる事。

**察度** 1321年生まれ、1396年没。1350年に中山王となり46年在位した。中国への進貢を初めて行った王である。

**サメ歯有孔製品** サメの歯に孔をあけた製品。磨きを加えているものもあり、アクセサリとして、あるいは呪術的な力を得るために身に付けたことが考えられる。

**サンアイ・イソバ** 生没年未詳。15世紀末、与那国島を統治したといわれている女性。

**三山統一** 14世紀から15世紀にかけて、沖縄島にあった3つの王国。北から山北（北山）、中山、山南（南山）。それぞれの国が独自に中国と外交関係を持っていた。

**山南王** 沖縄島南部を南山といい、その南山を支配した王統。南山とは山南の俗称で、山南の山は「島」の意味。

**シェルディスク** 円盤の形をした貝製品。

**史跡** 文化財の種類の一つ。貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅、その他の遺跡。

**自然遺物** 貝殻や魚や動物の骨等の遺物。

**島添大里按司** 14世紀頃に、島添大里間切（現在の南城市大里・佐敷・知念・玉城）を支配していた按司。「島添大里グスク」は、その「島添大里按司」によって築かれたグスク。

**ジャーガル** 泥岩が風化してできた灰色～灰褐色の土で沖縄島南部に多い。粘土質の細かい粒子からなり、水はけが悪く、雨が降るとぬかるむ。

**獣魚骨** イノシシ等の動物や魚類の骨。

**集積遺構** 貝などを1カ所に集めて置いた遺構。

**集石遺構** 大小多くの石が意図的に集められた跡。

**宿道** 首里と各地の間切を結ぶ幹線道路。王府からの情報、宿道を通して中頭・国頭・島尻に伝えられた。

**首里古地図** 18世紀ごろ作製された首里の地図。原図は沖縄戦で焼失。1910年に模写された地図が、県立図書館に所蔵されている。首里城を中心に、周囲の街並みや屋敷、田畑・河川などが描かれており貴重な資料である。

**峻坂羊腸** 険しい坂が、羊の腸のように幾重にも曲がりくねっている様子。

**城郭** 城内の平場を土塁や石垣などで囲んだ区域の名称。

**尚宣威** 1430年生まれ、1477年没。第二尚氏王統2代の王。初代の尚円王の弟。尚円の没後、その世子の尚真が幼いため王となった。しかし在位半年（1476年8月～1477年2月）で王位を尚真に譲り、越来で暮らした。

**尚泰久** 1415年生まれ、1460年没。第一尚氏王統6代の王。在位は1454～1460年の7年間。仏教に深く帰依し、万国津梁の鐘など多数の鐘を造った。

**鍾乳洞** 石灰岩の割れ目から入った雨水や地下水の溶解作用によってできた洞窟。洞窟内は地下水が流れ、天井からは鍾乳石、下からは石筍等が立ち並ぶことが多い。

**尚巴志** 1372年生まれ、1439年没。21歳のときに佐敷按司となる。その後、第一尚氏王統第2代の中山王となり、18年間（1422～1439年）在位した。三山に分かれていた琉球を1429年に統一した。

**『正保国絵図』** 日本の江戸幕府が、諸大名に命じて国単位で作らせた国絵図で、これに基づき、正保日本図（日本総図）が作成された。

**上焼** 釉薬を掛け1200℃前後で焼成された色彩豊かな陶器。

**植物珪酸体分析** 植物珪酸体は植物の細胞壁に蓄積し、植物体が枯死した後も腐敗せず土壌に保存される。植物ごとの特徴があることから種類を特定でき、花粉とは違い乾燥地や酸性土壌でも残りやすいため、過去の環境と植生を知る手がかりになる。

**熾烈** 勢いが盛んで激しいこと。

**人工遺物** じんこういぶつ せつき どき 石器や土器など人が作ったもの。

**進貢貿易** しんこうぼうえき ちゆうごく しゆうへんしよごく ぼうえき しゆうへん 中国と周辺諸国間の公貿易。周辺国から中国へ「貢物」を献上し、中国から「返礼品」を受け取るという形式をとる。沖縄の進貢貿易は14～19世紀に行われ、硫黄、ナマコ、馬等を輸出し、絹製品、茶、鉄製品などを輸入した。

**尋常高等小学校** じんじゆうこうとうしやうがっこう じんじゆう こうとう へいせつ 尋常小学校と高等小学校を併設した学校。1886（明治19）年～1941（昭和16）年の間使われた名称。現在の小学校1年生から中学2年生の子ども達が学んだ。

**陣地壕** じんちちゆう ぐん へい かき ばいち 陣隊が兵や火器などを配置する場所として利用した人工または自然の洞窟・溝。

**厨子甕** ずしがめ せんこつ ぼね おさ ようき いえがた かめ 洗骨したあとの骨を納める容器。家型、甕型がある。

**墨書き** すみが ずしがめ 厨子甕に書かれているものを方言で「ミガチ」という。

**青花** せいカ ちゆうごくさん そめつけ もよう じき 中国産の染付（白地に青色の模様がある磁器）。

**生活習俗** せいかつしゆうそく 生活していく上での習わしや風習。

**青磁** せいじ ちゆうやく けい じき 釉薬が緑か青色系の色調となる磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本、ベトナム、タイ、ミャンマーなどで生産されている。日本や沖縄で出土する中国産青磁の多くは、元から明代にかけて浙江省の龍泉窯及びその周辺で生産されたもの。

**正殿** せいでん しゆりじゆうせい でん 「国殿」または「百浦添御殿（ムンダスィー）」とも呼ばれ、国王が政務を行ったり、重要な儀式に使われたりした。2層で3階建てとなっている。現在の正殿は1992（平成4）年に復元されたもの。

**斎場御嶽** せいふあう たき おきなわさいこう せいち りうきゆう しゆうきゆうてき ぎらい し 沖縄最高の聖地で、琉球国の宗教的儀礼や自然信仰の場とされている。国王が何度も訪れたほか、間得大君の就任儀式「御新下り」も行われた。2000年にユネスコ世界遺産に登録。

**石英製石器** せきえいせいせつき せきえい 石英で作った道具。石英はチャートや黒曜石に比べて石器製作は難しいが、分布が広く入手しやすいので石器としてよく使われる。サキタリ洞は石英の産地から30km以上離れているため、人の手により運ばれてきた事がわかる。

**石鏃** せきぞく 石で作った矢じり。

**石斧** せきふ せきせい ほ つ おの もくせい え と 石製の刃を付けた斧。木製の柄に取り付けて使用する。

**石列・石組** せきれつ いしぐみ なら 石を並べたり、円形や方形に囲った遺構。主に建物の基礎部分に見られる。

**舌状丘陵** ぜつじゆうきゆうりゆう 人間の舌のような形をした、なだらかで細長い丘のこと。

**洗骨** せんこつ はか あんち いたい 墓に安置した遺体を、ある期間が経ってから取り出し、骨を洗い清める儀礼のこと。

**先史時代** せんしじだい 文字資料が無い時代。

**装身具** そうしんぐ アクセサリーや魔よけとして身につけたもの。

**葬制** そうせい な 亡くなった人に対する弔いのための一連の行為や儀式。

**礎石** そせき けんちくぶつ 柱の下に置かれ、その沈下を防ぐ働きをする石。

**曾畑式土器** そばたしきどき くまもとけんう とし そばたかいつか さいしよ しゆうど 熊本県宇土市の曾畑貝塚で最初に出土したことから名付けられた縄文時代前期の土器。丸底の深鉢や浅鉢がある。深鉢形は口縁部がやや外反し粘土に滑石を混ぜることもある。口縁部内面から外面へ連続的に幾何学文様を配す。底の部分はクモの巣状の文様が特徴。朝鮮半島から九州・沖縄まで広く分布している。

**田芋発祥の地** たうむほつしやう ち いとかまでら ぼう 糸蒲寺のお坊さんが、日本から持ってきた田芋を寺の近くに植え、そこから琉球中に広まったという伝説がある。

**第一尚氏** だいいちしやうし しやうししやう し そ 尚思紹を始祖とし、7代目の尚徳まで64年間（1406～1469年）続いた王統。1429年、2代尚巴志のとき三山を統一した。



**第三二軍** だいさんじゅうにぐん 沖繩戦のとき、沖繩守備のために編成された日本陸軍の部隊。複数の師団、旅団等で構成され、兵力は11万5000～12万人だった。

**タイ産半練土器** さんはんねら ど き タイで焼かれた土器。身と蓋があり、蓋は褐釉陶器の蓋にもなった。

**堆積** たいせき 土砂や生物の遺骸等が地面や海底の上に積み重ねること。

**第二四師団第二野戦病院壕** だいにじゅうよん しだんだい に やせんびょういんごう 通称「山部隊」が使用した病院壕。沖繩戦時には建物の病院ではなく、地下に壕を掘ったり、自然のガマを利用して病院とした。

**高宮廣衛** たかみやひろえ 1928（昭和3）年生まれ、2015（平成27）年没。那覇市出身。考古学者。沖繩諸島における考古学の土器研究の基礎を構築した。著書『沖繩縄文土器研究序説』、『沖繩の先史遺跡と文化』など。

**高床倉庫** たかゆかそうこ 風通しをよくする湿気対策や、ネズミ等が入ってくるのを防ぐために、床が高く造られた倉庫。

**宝口焼** たからぐちやき 宝口（現在的那覇市首里儀保町の宝口樋川付近）で焼かれていた焼物。

**焚口** たきぐち 火を燃やすための木材をいれる穴。

**敲石** たたきいし 物をたたいてつぶすために用いられた石器。棒状、円柱状、楕円球状、球状など様々な形のものがある。

**竪穴住居跡** たてあなじゅうきよあと 地面を浅く掘り下げて床面とし、その上部に屋根を葺く構造の住居の跡

**玉縁碗** たまぎわん 碗の縁が丸く膨らんだ碗。

**多和田真淳** たわだしんじゅん 1907（明治40）年生まれ、1990（平成2）年没。教育者・植物学者であるとともに考古学者としても活躍した。

**段丘** だんきゅう 海岸沿いにある階段状の地形。平坦な段丘面と、急斜面の段丘崖からなり、地盤や海面の上昇・下降により生じる。

**知花焼** ちばなやき 沖繩市知花で焼かれていた焼物。

**チャート** ちやうと 微生物の遺体や粘土粒子が海底に堆積してきた岩石。石英を多く含み非常に硬い。

**柱穴** ちゅうけつ 掘立柱建物を建てるとき、柱を立てるために掘った穴。

**柱穴群** ちゅうけつぐん 建物の柱を立てた穴が集まっている状況。

**蝶形骨器** ちようがたごつき 蝶が羽を広げた形に似ていることからこの名称がつけられた。現在、沖繩県内でしか見つかっていない。主に、ジュゴンのアゴやあばらの骨を使って作られている。

**朝鮮人陶工** ちようせんじんとうこう 首里王府の要請によって薩摩藩（現在の鹿児島県）から1617年に渡来した3名の朝鮮人。2名は帰国したが、張献功は帰化し、湧田村に家屋敷を与えられ、製陶技術を教えた。

**鏢** つば 刀の柄（手で握るところ）と刃の間にある平たい金具。

**爪形文土器** つめがたもん ど き 外表面のほぼ全面に、人の爪や指先で施したような文様、あるいはそれを模した文様が見られる深鉢形の土器。沖繩県では縄文時代早期に属しており、その分布は沖繩島と渡嘉敷島、奄美諸島に限られている。

**爪形文土器（東原式）** つめがたもん ど き 読谷村の渡具知東原遺跡で最初に出土したことから名付けられた縄文時代早期の土器。表面に爪や工具で刺して付けた文様が見られる。

**爪形文土器（ヤブチ式）** つめがたもん ど き うるま市の藪地洞穴遺跡で最初に出土したことから名付けられた縄文時代早期の土器。表面に指の先で押した痕が多く見られる。

**中継貿易** ちゅうけいぼうえき 輸入した品物を別の国へ輸出すること。

**低地砂丘上** ていち さきゅうじょう 強い風により海岸の砂が吹きあげられてできる小さな低い丘。

**ティンダバナ** ていんだばな 与那国町祖納の南側に、屏風のようにそり立つ、高さ100m近くの断崖。

**鉄斧** てつふ 鉄で作られた斧。宇堅貝塚からは板状のものが出土している



**土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム** と い が は ま い せ き じんるいがく 山口県下関市にある博物館。人類学・民俗学・考古学の三分野を研究している。

**銅製漢式三角鏃** どうせいかんしきさんかくぞく 中国を起源とする銅製の鏃。中国の戦国後期・秦～前漢の時代に生産された。日本本土では弥生時代の遺跡から数例が知られ、沖縄では宇堅貝塚群のほか、読谷村浜屋原貝塚、八重瀬町新里洞穴遺跡での出土がある。

**土器型式** どきけいしき 特定の時期と地域から出土する共通した特徴を持つ土器の類型のこと。「〇〇式土器」のように使う。「〇〇」には、通常その土器が最初に見つかった遺跡の名前が入る。

**土坑墓** どこうぼ 地面に穴を掘り、遺体を埋葬した墓。

**魚垣** な が き 海から海岸方向へ逆V字状に石を積み、魚の逃げ口を狭くしておき、潮の干満を利用して魚を捕らえる漁法。垣の高さは水深に合わせる。

**仲宗根豊見親** なかそねとうむみや 仲宗根豊見親玄雅。生没年未詳。宮古歴史上の英雄。1500年、首里からの八重山征討軍に参加し、オヤケアカハチを倒した。

**長堂原** ながどうばる 南城市知念久手堅にある地名。

**仲原式土器** なかばるしきどき うるま市伊計島の仲原遺跡で最初に出土した縄文時代晩期の土器。深鉢形と壺形があり、底部は尖底。文様は無く、外耳を付けるものもある。

**仲屋金盛** なかやかなもり 仲屋金盛豊見親玄武。生没年未詳。仲宗根豊見親玄雅と共に八重山に出陣し武功をあげ、父の跡を継いで宮古島の頭（島役人の最高職）についた。

**那覇駅と与那原を結ぶ路線** な は え き よなばる むす るせん 1914（大正3）年12月2日に、那覇と与那原を結ぶ与那原線（全長約9.8km）の操業が開始された。

**鍋形土器** なべがたどき 鍋の形をした土器。

**根屋** にーや 村に最初に移り住んだ人の家で、村落の祭祀の中心となる家。根所とも呼ぶ。

**ヌル殿内（ヌンドゥルチ）** どんち ノロ火の神がある家。

**根石** ねいし 石垣などで一番下に積む、基礎となる石。

**野面積み** のづらづ 加工していない自然の石を、そのまま積み上げる石積み。もっとも古くからある積み方。

**登窯・登り窯** のぼりがま 傾斜地に数個の焼成室を連結した窯。薪を燃やした火炎と廃熱が順次昇っていき、熱効率がよいことから、大量に焼くことができる。

**ノロ** ちいきしんじ 地域の神事を執り行った女性。王府から辞令書を受けたものを公儀ノロという。

**背甲板** はいこうばん 亀の背中にある甲羅。

**廃藩置県** はいはんちけん 1871（明治4）年に明治政府がそれまでの藩の制度をなくし、府・県を置いたこと。これにより3府（東京・大阪・京都）と302県が置かれた。沖縄は1872（明治5）年に王国から琉球藩となり、1879（明治12）年に沖縄県となった。

**白磁** はくじ 白磁の素地に透明釉をかけ、高温で焼成した磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本のほか、ヨーロッパでも生産される。沖縄で出土する中国産白磁は、稀に定窯産もあるが、大部分は明代の景德鎮や中国南部を産地とする。

**羽口** はぐち ふいごと炉の間に取り付け。ふいごから炉に送られる風が通る管。

**剥片石器** はくへんせつき 打ち欠いた石のかけらの方を加工して作った石器。

**羽衣伝説** はごもでんせつ 男が泉で水浴びをしている天女の羽衣を盗んで、帰れなくなった天女と結婚し子どもをもうける。天女は羽衣のありかを知らなかったが、ある日子どもの歌からその場所を知り、それを身に付け子どもを置いたまま天に帰るといふ伝説。日本のみならず、広くアジア各国にも同じような話が伝わっている。

**板斧状製品** ばんぶじょうせいひん 刃の部分が平らで広い形をした製品。

**ヒスイ** ひすい つやのある緑色の宝石。沖縄には産出しないが、縄文時代から使われている。本州の北陸地方から運ばれてきたと考えられている。

**ビディリ** <sup>れいせき おきなわじま</sup> 霊石。沖繩島でビジュアルなどと呼ばれるもの。

**避難壕** <sup>ひなんごう おきなわせん てきぐん こうげき</sup> 沖繩戦中に敵軍の攻撃から身を隠す場所として、自然または人工の洞穴や墓が利用された。

**火の神** <sup>ひぬかん</sup> 台所に祀られている家の神で、家族の安全や豊作などを祈った。3つの石を御神体とするのでウミチムン（御三物）とも呼ばれる。

**平窯** <sup>ひらがま わんしゅうしつ まきも</sup> 燃焼室（薪を燃やす場所）とひとつの焼成室（陶器を並べる場所）からなる窯。

**平山城** <sup>ひらやまじろ へいたんち きりやうりやう</sup> 平坦地にある丘陵を利用して築いた城。

**広田遺跡** <sup>ひろたいでせき たねがしま ぬなみたねちやう</sup> 種子島の南種子町にある、海岸砂丘上につくられた弥生時代中期～後期（約2200～約1700年前）の集団墓地。

**ふいご** <sup>かじろない そうふうき</sup> 鍛冶炉内への送風器。炉とふいごの間に羽口が付く。

**風水** <sup>ふうすい</sup> 土地の良し悪しを判定する考え方。古代中国で発生した。

**風葬** <sup>ふうそう</sup> 死体を地中に埋めずに樹上や地上にさらし、自然に白骨化させる葬法。

**南又窯** <sup>なんまたがま</sup> 壺屋に唯一残る荒焼の登り窯。

**フェンサ下層式土器** <sup>かそうしきどき</sup> 糸満市名城集落にあるフェンサグスク貝塚の下層から最初に出土した土器。くびれ平底土器とも呼ばれる。甕形が主体でわずかに壺形もある。くびれ平底で無文化が進むが、口頸部にコブ状突起を貼り付ける。沖繩島及び周辺離島に分布する。

**フェンサ上層式土器** <sup>じやうそうしきどき</sup> 壺形土器と鉢形土器を主体とし、底径が広い平底が多い。ガスク時代の土器で口縁部にコブ状の突起が付けられたものもあり、滑石製石鍋の把手の影響が考えられている。

**複合遺跡** <sup>ふくごういでせき</sup> 2つ以上の時代の遺跡が重なっている遺跡。

**副葬品** <sup>ふくそうひん</sup> 遺体を葬る際にそえられた物。

**平地式住居跡** <sup>へいちしきじゆうきよあと</sup> 竪穴住居のように地面を掘り込まず、平地に柱を立てて構築した住居の跡。

**墓域** <sup>ぼいき</sup> 墓のある区域。墓地。

**貿易陶磁器** <sup>ぼうえきとうじき</sup> 海外貿易によって得られた陶磁器のこと。グスクの発掘調査で発見される貿易陶磁器は主に中国産であるが、他に朝鮮・ベトナム・タイ・日本産がある。輸入陶磁器ともいう。

**防御施設** <sup>ぼうぎよしせつ</sup> 敵の攻撃などを防ぎ守るための構造物。

**放射性炭素年代測定** <sup>ほうしやせいたんそ</sup> 放射性炭素（<sup>14</sup>C）は炭素の同位体で、天然に存在する放射性元素のひとつ。地球上に広く存在し、食物連鎖によって生物に取り込まれる。遺跡に残る骨や貝、燃料に使った木炭、建物の柱、すべての有機物に炭素が含まれているので、放射性炭素年代測定法は、考古学の分野で最も広く使用されている。<sup>14</sup>Cは生物体が死ぬと減り始め、約5730年経過すると生前の2分の1になり、約1万1460年後には4分の1に、約1万7190年後には8分の1になる。この法則を基に、骨などの分析資料中にある<sup>14</sup>Cの量を調べることにより、何年前のものかが推定できる。

**北山監守** <sup>ほくざんかんしゆ</sup> 尚巴志が北山王を滅ぼして、北山（現在の北部）一帯を監視し、守るために1422年に設けた役職。第二尚氏の時代になっても続けられたが、1665（尚質18）年に廃止。

**掘立柱建物** <sup>ほったてばしらたもの</sup> 家を建てる時、柱の下にそれを安定させるための石を置くことが多いが、その石を置かず、直接、柱の下部を土の中に埋めて建てた家。

**掘切** <sup>ほりきり</sup> 敵の侵入を防ぐために掘られた溝。

**マーラン船** <sup>まらんせん</sup> 18世紀初頭の頃に伝わったとされる中国式の船。近世中期以降に、沖繩島内および先島を往来した。「マーラン」は中国語で、海上を馬のように走ったことからこの名がついたと言われる。

**掘込墓** <sup>ほりこみぼか</sup> 斜面や崖に横穴を掘りこんで厨子甕や木棺を置く場所を作った墓。

**埋葬** <sup>まいそう</sup> 死体または遺骨を土中に葬ること。



**マイヌトゥニ** マイヌは「前の」の意味。トゥニは村の御嶽を祀る宗家を指す言葉で、その家があった場所が拝所になったと考えられている。

**真栄里式土器** 糸満市真栄里貝塚で最初に出土した弥生～平安並行時代Ⅰ期の土器。沖縄島及び周辺離島に分布する。

**門中** 先祖が同じ人からなる一族。主に父系の血がながるもので構成される。

**名勝** 庭園、橋梁、溪谷、海浜、山岳などで、景色のよい場所。

**木棺** 木材で作られた棺（死んだ人を納める容器）。

**文様** 道具や衣服などの表面に装飾された図形。同じ図柄の繰り返しによって構成されるものを指すことが多い。

**焼石による調理** 多数の焼いた石の上にバナナ等の大きな葉で包んだ食材をのせて蒸す調理法。

**ヤコウガイ** リュウテンサザエ科の大型巻貝。貝殻が美しい光沢を持つため、螺鈿細工の材料として使われる。

**弥生土器** 弥生時代に焼かれた土器。焼成温度は縄文土器よりも高いため、赤色で、薄手だがしっかりしている。文様の無い土器が多く、口広の壺や、高坏・甕・鉢等がある。

**屋良部半島** 石垣島の最西端にあり、北に底地湾、南に名蔵湾がある。

**有孔虫** 石灰質の殻を持つ単細胞動物。1mm以下のものが多い。「星砂」は有孔虫の殻である。

**湧水地** 水が自然にわき出ている場所。

**輸入陶磁器** 海外貿易によって得られた陶磁器のこと。ガスクの発掘調査で見られる輸入陶磁器は主に中国産であるが、他に朝鮮・ベトナム・タイ・日本産がある。貿易陶磁器ともいう。

**螺鈿細工** 薄く加工したヤコウガイ等の貝殻を、模様の方に切りとり、漆器の木地や漆の面に貼ったりはめこんだりする装飾技法のこと。

**李氏朝鮮** 朝鮮最後の統一王朝（1392～1910年）。太祖李成桂が高麗を倒して建国、漢城（現在のソウル）を首都とした。儒教を国教化し、領土を朝鮮半島全域に広げるなど、15世紀に最盛期を迎えたが、その後、党派の争いが激化し、豊臣秀吉の軍や清軍の侵入をこうむり社会は混乱した。19世紀には日本や欧米列強の圧力を受け、1910年、日本に併合された。

**琉球開闢** 琉球の始まり。

**『琉球国高究帳』** 近世の琉球における各村の米の生産高を田畑別に示し、間切（いくつかの村で構成される沖縄独自の行政区画単位）ごとに集計したもの。

**『琉球国由来記』** 1713年、首里王府によって編集された。琉球国各地のグスクや御嶽の由来、古くからの行事などについて調べた本。全21巻。

**琉球石灰岩** サンゴ礁性生物の石灰質死骸が堆積し、約170万～50万年前に形成された岩。

**龍潭** 1427年に作られた人工の池。魚が多くすんでいたため、「魚小堀（イユグムイ）」とも言われていた。「潭」は池のことである。

**炉跡** 火を使って調理等をした跡。住居の外にある場合もある。

**ロストル** 薪などをのせる格子状の器具。灰を落とすとともに、空気の通りをよくして燃焼を促進するもの。

**湧田焼** 湧田村（現在の那覇市泉崎周辺）で焼かれていた焼物。

**湧出** 伊江島の北西岸に位置し、水が湧き出ることから「湧出」と呼ばれる。昔からの大事な水源地として今なお飲料水として使用されている。

# 掲載遺跡一覧(五十音順)

## 【あ行】

あつた かいづか 熱田貝塚	54
あつた ぼるかいづか 熱田原貝塚	144
あ は れんうらかいづか 阿波連浦貝塚	166
アラフ 遺跡	176
あ わ よ な がわぼる い せき 安和与那川原遺跡	40
アンチの上貝塚	34
い げ な かいづか 伊是名貝塚	58
いと か ま い せき 糸蒲遺跡	98
イ キナグナーワンダー 遺跡	145
い ら は ゐがし い せき 伊良波東遺跡	138
う く く び こ う つ う い せき ぐ ん 奥首の交通遺跡群	50
う けん かいづか ぐ ん 宇堅貝塚群	76
う ふ だ う ぼ る かいづか 大堂原貝塚	38
う ら そ え し に し かい が ん い し き り ぼ あ と ぬ と が わ ち く 浦添市西海岸の石切場跡(港川地区)	108
う ん て ん ふ る ぼ か ぐ ん 運天古墓群	32
お お し ろ じ ょ う あ と 大城城跡	146
お お だ ま り は ま かいづか 大泊浜貝塚	192
お き な わ けん え い て つ だ う な は え き あ と 沖縄県宮鉄道那覇駅跡	128

## 【か行】

が じ ゃ い せ き 我謝遺跡	111
か じ ょ う かいづか 嘉門貝塚	102
か で な かいづか 嘉手納貝塚	86
き じ ょ か かいづか 喜如嘉貝塚・ワラビンチャー墓	26
ぎ の ざ ぬ ふ る じ ま い せ き 宜野座ヌ古島遺跡	46
き じ ゃ な ぶ り ぼ る い せ き 喜友名東原ヌバタキ遺跡	99
き ん し ょ う じ ゅ う だ う い せ き 金武鍾乳洞遺跡	48
く し かわ じ ま い せ き ぐ ん 具志川島遺跡群	56

く し けん かいづか 具志堅貝塚	36
く し ち ゃ ん 具志頭グスク	154
クニンドー 遺跡	130
クマヤー 洞穴遺跡	92
こ う り ぼ る い せ き 古宇利原B遺跡	30
ご え く 越来グスク	90
ご き い く じ ょ あ と 御細工所跡	122

## 【さ行】

さ き え だ あ か さ き かいづか 崎枝赤崎貝塚	186
さ き た り 洞 遺跡	142
し お や かいづか 塩屋貝塚	52
し ま な か む ら あ と い せ き 島仲村跡遺跡	198
し ま め ー ぼ る い せ き 島ノ前原遺跡	136
し み ず かいづか 清水貝塚	170
し ら ほ さ お ね た ぼ る だ う け つ い せ き 白保芋根田原洞穴遺跡	184
し ん ざ と む ら い せ き 新里村遺跡	194
す み や ぞ く し ょ う し り ま い せ き 住屋(俗称:尻間)遺跡	178
そ な ん む ら あ と 楚南村跡	78

## 【た行】

だ い さん じ ゅ う に ぐ ん し れ い ぶ つ か ざ ん ぐ ろ う ぐ ん 第三二軍司令部津嘉山塚群	132
た た な 多々名グスク	152
チヂフチャー 洞穴遺跡	104
ち ゃ た ん ぐ す く 北谷城	94
つ ぼ や こ じ ょ う ぐ ん 壺屋古窯群	120
ティミグスク	148
だ う な ん ぼ ら い せ き 与那原遺跡	196



とぐちあがりぼるいせき 渡具知東原遺跡	80
とぐちどうけついせき 渡口洞穴遺跡	96
とみぐすく 豊見城グスク	140

## 【な行】

なかぐすくどうん きゅうけんりつほくぶつかんあと 中城御殿 (旧県立博物館跡)	126
なかぐすくどうん しゅりこうとうがっこうない 中城御殿 (首里高等学校内)	124
なかだうえいせき 仲田上遺跡	60
なガラ原第三貝塚	62
ナングスク (ナングシク遺跡群)	42
ねじやめ 根謝銘グスク	28

## 【は行】

ヒニグスク	97
ピロースク遺跡	188
フェンサ城貝塚	160
ふきだしぼるいせき 吹出原遺跡	84
ふなこしぼるいせき 船越原遺跡	162
ふるざまみかいづか 古座間味貝塚	168
へんとなかねくいぶつさんぶち 辺土名兼久遺物散布地	24

## 【ま行】

まえざとかいづか 真栄里貝塚	156
まえだ きょうづかきんせいぼぐん 前田・経塚近世墓群	106
ましきもりかわぼるだいちいせき 真志喜森川原第一遺跡	100
まぶに ぼるいせき 摩文仁ハンタ原遺跡	158

みなとがわいせき 港川遺跡	149
めーぼるいせき 前原遺跡	44

## 【や行】

や えしまかいづか 八重島貝塚	88
やぶち どうけついせき 藪地洞穴遺跡	74
よなぐすかいづか 与那城貝塚	110

## 【わ行】

わくた こようあと 湧田古窯跡	118
わじかいがんとうじきさんぶち 湧出海岸陶磁器散布地	66
わたんぢむらあと 渡地村跡	116

## 【コラム】

さんぶち 散布地って何?	25
どきいちらんりゅう 土器一覧表 (用語解説に登場する土器のみ)	61
そうしんぐ 装身具について	65
すいちゅういせき 水中遺跡	68
遺跡はどのように発見されるの?	91
はくつちようさ 発掘調査の道具	101
まだまみち 真珠道	122
せんそういせき 戦争遺跡	134
はくつちようさ すがた あらわ わくたむら 発掘調査で姿を現した湧田村	137
おきなわ はくつつ じんこつ 沖縄で発掘された人骨	175
ふんせき しゅつど 墓石 (ウンチ) の出土	191

# 文化財の体系図

文化財の種類

特に価値の高いもの

特に重要なもの

重要なもの

# 文化財

特に必要のあるもの

保存と活用が特に必要なもの

保存の措置を講ずる必要があるもの

## 有形文化財

建造物  
美術工芸品  
工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など形のあるもの

指定

登録

## 無形文化財

演劇、音楽、工芸技術などの、形のない人間の「わざ」そのもの

指定

選択

## 民俗文化財

**有形民俗文化財**  
風俗慣習、民俗芸能、民俗技術に用いられる衣服、器具、家屋等  
**無形民俗文化財**  
衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術

指定

登録

選択

## 記念物

**遺跡** 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など  
**名勝地** 庭園、橋梁、溪谷、海浜、山岳など  
**動物**  
**植物**  
**地質鉱物**

指定

登録

## 文化的景観

地域の人々の生活または生業および地域の風土によって形成された景観地  
棚田、里山、用水路など

都道府県又は市町村の申出に基づき選定

## 伝統的建造物群

宿場町、城下町、農漁村など

市町村が決定

## 文化財の保存技術

文化財の保存に必要な材料や用具の生産・製作、修理・修復の技術など

選定

## 埋蔵文化財

土地に埋まっている文化財

重要文化財

指定

国 宝

登録有形文化財

重要無形文化財

記録作成等の措置を  
講ずべき無形の文化財

重要有形民俗文化財

重要無形民俗文化財

登録有形民俗文化財

記録作成等の措置を  
講ずべき無形の民俗文化財

史 跡

指定

特別史跡

名 勝

指定

特別名勝

天然記念物

指定

特別天然記念物

登録記念物

重要文化的景観

伝統的建造物群  
保存地区

選定

重要伝統的建造物群  
保存地区

選定保存技術



# あとがき

沖縄県教育委員会は、県内に所在する国・県指定の文化財を写真と文章で紹介する本として、昭和50年に『沖縄の文化財』を刊行しました。その後昭和59年、同62年、平成5～9年、と3回にわたり全面的に版を改め、その都度、既刊書の解説文と写真を刷新するとともに前回改版後に指定等された文化財を追加してまいりました。平成5～9年の改版では、それまで1冊だった同書が文化財の種別による5分冊となりました。

この度、『沖縄の文化財』の4度目の改版にあたり、頁サイズをB5からA4に拡大し、イラストや写真を多用して読みやすく親しみやすい本とすることを目指しました。そして、多くの方々に手にとって頂き、文化財に興味を覚え、愛着を持つきっかけとなることを願って『みんなの文化財図鑑』と名付けました。『みんなの文化財図鑑』は、「史跡・名勝編」、「埋蔵文化財編」、「有形文化財編」、「無形・民俗文化財編」、「天然記念物編」、「ハンドブック版」の6分冊構成となる予定です。本書は、昨年度の「史跡・名勝編」に続き、第2冊目となります。

本書の刊行にあたりましては、画像の提供や解説文の作成など、県内各市町村教育委員会をはじめとする関係機関ならびに多数の関係者の方々に協力して頂きました。皆様のご尽力の賜として本書は誕生しております。その意味でも、「みんなの」文化財図鑑なのだと思います。改めて深く感謝申し上げます。

平成 31年3月  
沖縄県教育委員会  
文化財課長 濱口 寿夫

# 私たちの文化財です 大切にしましょう!!!

文化財を許可なく無断で現状変更する  
ことは法律で禁止されています。

らくがきしない



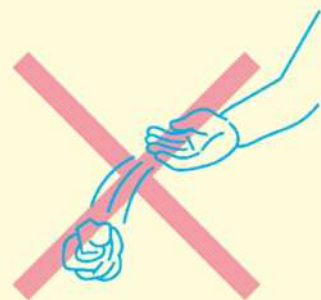
壊さない



持って帰らない  
別の場所で捨てない



ゴミを捨てない



掘らない



香炉など文化財に  
関係ないものを置かない



みんなの文化財図鑑  
—埋蔵文化財 編—

2019(平成31)年3月発行

---

発行: 沖縄県教育委員会

編集: 沖縄県教育庁文化財課

〒900-8571

沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

TEL.098-866-2731

吹出・コラム

(「散布地とは何か」「発掘された人骨」「装身具・副葬品について」「遺跡はどのように発見されるの?」「真珠道」)

宮城 一春

レイアウト

玉城 寿々子

印刷・製本: みんなの文化財図鑑埋蔵文化財

編制作委託事業体(合資会社沖縄時事

出版/株式会社平山印刷)

〒900-0025

沖縄県那覇市壺川1-3-10

TEL.098-854-1622

---

\* 本書に掲載された写真は、提供者のクレジット等特記がない限り、全て沖縄県教育庁文化財課に帰属します。







# みんなの 文化財図鑑

埋蔵文化財編

